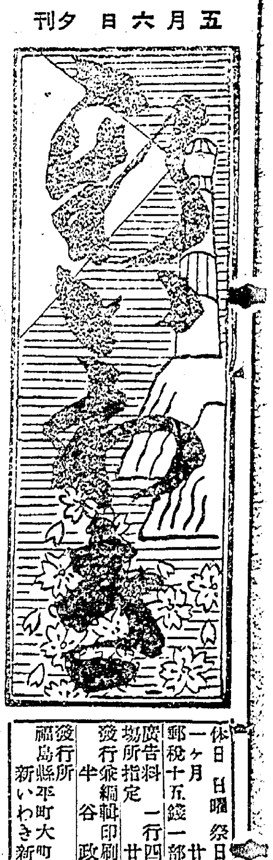
昭和五年三月卅一日 第三種郵便物認可
昭和八年五月七日【日刊】 新いわき 【日曜日】 第八百七十九號 (一)

五月六日夕刊



休日 日曜 祭日
一ヶ月 廿五錢 郵税十五錢 一部二錢
廣告料 一行四十錢 場所指定 廿錢増
發行兼編輯印刷人 半谷政寮
發行所 福島縣平町大町五 新いわき新聞社

全町を搖がす喜び
湯本町の水道祝賀
滿町の裝飾成る明七日
同町に於ける空前の賑

昨報石城郡湯本町の上水道竣功式は滿町の裝飾成りて愈よ明七日舉行される式の參列には內務、大藏兩省關係を初め赤木知事外縣官吏十余名、國縣議その他四百名以上で午前十時の定刻に打揚ぐる花火を合圖に開式石川町長の挨拶に次いで工務主任技師吉田俊三工學士の工事報告終つて小學生の水道竣功祝賀の歌

萬歳々々喜び歌へ、成りし水道の大工事、青葉に風の薫る時、多年の望今や成る高く歌へ、此の偉業、歌へよ稱へよおゝ高らかに

祝へや歌へ嬉しき此の日、風光明媚の好間川、惠みは流る湯本の地、昔の惱み今はなし、稱へよ友よ此の成功、萬歳々々おゝ高らかに

合唱の後工事關係者左記に感謝狀及び表彰狀を贈呈の筈で來賓側から約二十名の祝辭あり式を閉づる豫定になつてゐる、同水道工事は元町長高木巳之吉氏當時からの企畫であつて前町長小泉三代喜氏の在職に至りて具体化し昭和六年九月一日起工總工費三十四萬七千七百四十八圓を投じ滿一年一ヶ月を以て完成した導水路線千六百二十五間余には隧道數ヶ所の難工を遂げて人口二萬に及ぶ給水に不足なきを唱へられるばかりでない最大水壓點百三十尺余最少百十余尺は瓦斯倫ポンプも遙かに及ばざる消火力を有し殊に同町入山炭礦の坑內までに注がれる淨水の給與は保健上絶大なる幸福で曾て腸チフス其の他の傳染病費に一ヶ年五六千圓から一萬圓を要したそれが水道給水後同患者殆んど皆無の事實を見てゐることは何ものにも代へられぬ代償であつて多年の宿望を遂げた町民の喜びもさこそと云はれてゐる

▲感謝狀を贈られる人々 代議士比佐昌平 同鈴木辰三郎 入山鑛業所長吉田宗雄 磐城炭鑛々業所長菅原万次郎 磐城新聞社副社長蓮沼龍輔 ▲表彰狀 湯本町長石川德壽 前町長小泉三代喜 元町長高木巳之吉 同町消防組頭坂本千代松、前町議及び區會議員七名、町助役仲里顯太郎 收入役坂本文次 庶務主任書記柏木清七 工務主任吉田俊三 第一導水路主任技手三島靜夫 第二導水路主任技手江尻浩重 淨水場主任技手鈴村政雄 配水池及配水管布設主任技手井上末春 外同從事職員十六名 水道委員渡邊長作 渡邊渡 若松孝平 若松修一 上川才松 生田目嘉清 鯨岡愿道 鯨岡誠祐 鯨岡賢司 小井戸大次 佐藤德兵衛 木村德三郎 比佐賢司 比佐源造 比佐榮一 鈴木康平 現町會議員若松孝平 松繁庄一 比佐賢司 村上六平 小井戸大次 比佐源造 大和田主馬造 鯨岡誠祐 矢吹佐市 鯨岡愿道 鬼澤八百松 上川才松 渡邊長作 鯨岡賢司 小野福次郎 矢吹莊司 木村德三郎 現區會議員西原末吉 御代當彌 金成嘉吉 生田目嘉清 高橋勇五郎 須藤熊雄 若松孝平 鯨岡誠祐 佐藤德兵衛 渡邊渡 若松修一(以上)

李鍵公殿下
今曉平驛御通過

盛岡地方へ御旅行の李鍵公殿下には六日午前三時二十分下り急行で平驛を御通過あらせられた

磐炭全從業員の結晶
淺野翁頌德記念館
あす盛大な開館式

內郷村磐城炭礦全從業員の醵金の結晶である前社長故淺野總一郎翁の頌德記念館は工費一萬八千圓で同村綴磐城炭礦鑛業所脇に建設中であつたが此程竣功したのでこの開館式は七日午前九時から舉行される、先づ故淺野翁令孫倉田飽之助氏の令孃洋子(八)さんの手で記念館講堂正面の故淺野翁銅像の除幕式が行はれ次いで淺野社長の挨拶、社員坑夫代表の祝辭等あつて正午から狂言、講演、映畫等の餘興があり盛況を豫想されてゐる、尚同館は建坪百五十一坪、階下は大講堂、洋間、日本間、喫煙室、映寫室まで設備され階上は全部觀覽席で外觀も頗るモダンな建物である

常識講座

モップルとは第三インターナショナルに直屬する國際革命勞働者後援會の名稱で同運動犠牲者の救援及び其の運動助成を目的とし此の救援會の運動をモップル運動と云つてゐる、

推候補に固辭され
南町で再び有志會
大町側から一名の希望も出たが
結局齊藤、小松の兩氏か

平町の南町は過般の豫選會で齋藤寅吉、小松茂、岡田政次郎三氏を候補に決し交渉を進めた結果が齋藤、岡田兩氏の固辭ある爲め昨五日午後七時同町産婆校に町內有志五十餘名を會して善後策を協議したが前回の豫選會が連記投票である事實から右三氏の中に不承諾のある場合更めて豫選會を行ふべき主張あるに加へて南町區に屬する大町側からも此の際一名の議員を得たき希望の下に二名の當選を期する目標を以て南町方部一名說の意見もあつたが幾度も豫選會を重ねることは相互的に迷惑でもあり岡田氏の辭意は飜へし得ずとしても齋藤氏に熱心な出馬を勸め同氏の政友系と民政派の小松氏を立たしむれば政黨的にも頗る妥當であり兩氏を候補に推すことが隱かであらうと云ふので議論の歸着を見るに至らず夜の十時過ぎ散會したが結局前記二氏に落つくものではないかと見られてゐる

江筋改修嘆願
大野部落民から

石城小川江筋水利改修工事は既報の如く工費五萬六百五十圓で本年度から着手されることとなつたが江筋沿岸の大野村大字戸田は末流にあり耕地の位置高く容易に灌水出來ぬ狀態にあるので同所のみ特にコンクリート工事を施行されたいとて小野善太郎外三十五名は江筋管理者長瀬事務官に對し連署の嘆願書を提出した

米價高値續く

大浦農業倉庫の俵米共同販賣は五日行はれたが出荷四百六十四俵の多數に達したゝめ二口に分けて入札の結果、四等建値第一口は八圓二十四錢、第二口は八圓二十一錢で取引された、この平均價格八圓二十二錢五厘で前回に比し俵當り一錢五厘高値であつた

所得稅委員會
十二三日頃完了

平稅務署の所得稅調査委員會は一日から開會、四日迄休會してゐたが五日から再會したが尚委員會は二十日迄開催の筈であつたが町村議選舉のある關係で鋭意調査を急ぎ大体十二三日頃迄に完了する見込である

噂の顏振

平町の町議改選期は來る五月卅日で定員卅名に對しどんな人々が出るだらう

(34) 甲府田直良君

出そうで出ないのも候補者だが出ない樣で出て來るのも候補者である其の何れかと云へば後者の君か、鍛治町から推された現議員だが藝妓屋代表の君でもある、磐中第八回(明治四十一年)の卒で當年四十四才政友派の井上君に組してゐるが藝妓屋の親玉鈴木重助君を背景にもつ舊政友佐藤代議士系の人である、一藝妓屋の主人公である君の祖は舊笠間の藩士で石城郡神谷の陣屋詰に置かれた谷口樓の祖等と大小をたばさんだ武士の流れ今から五十余年以前、平八百小名濱千軒の當時より現在の一丁目横町に山形家、龜家神保、谷口、玉川、金本の七戸が紅燈を並べて三味の音を漂はした其頃からの玉川家に養母の鄕里茨城から幼にして養子となり其の業を繼ぐ君だ町會人としての君には家業柄無理のない氣がねがないでもなく大勢順應で通して來た樣だが淺倉派の名匠赤堀信平君を實弟にもつ兄としての君にも強い一念專心の氣相があり言葉に無駄がなくて細かい注意心に時ともすれば理窟つぽい所のあるのは君の眞の性格であらうと云へやう、此の點から見て唯單に圓滿主義の八面玲ろう家ではなく穩健な常識の人としての中に所記の代表として拔け目のない働きあるを窺はれる君である、

平驛
昨年中の乘降
百六十八萬人
この收入二百三十万圓

平町の大玄關-平驛が一年間に吞吐する人員はどれほどあるか?昨年四月から本年三月末日に至る七年度乘降客は
乘車八十五万七百三十九人
降車八十三萬六百四十二人
合計百六十八萬一千三百八十一人でこの賃金二百三十六万五百九十圓九十四錢である、これを一日平均にすると乘車二千三百三十一人、降車二千二百七十六人、計四千六百七人この賃金ざつと六百四十七圓七十九錢に當つてゐる

後藤平驛長
司法警察官に
一日付で任命さる

平驛長後藤讓氏は鐵道營業法により司法警察官に、同助役小池甕司氏は司法警察吏に五月一日付それぞれ任命された

○○○○○○○
檢車所主任後任 大宮へ榮轉した神山平檢車所主任の後任は大宮から元吉尙繁氏がこの程着任した

藤田中尉の快著
『滿蒙は躍る』
荒木陸相の校閲も了り
愈よ近く市場へ出る

昨年奉天に開催された全國在鄕軍人分會長會議に出席した平町分會長藤田榮助中尉が歸途廣く滿蒙各地を旅行して收穫した滿蒙視察記は既報の如く『滿蒙は躍る』と題して陸軍省後援の下に帝國在鄕軍人會から出版されることとなつてゐたが此程全部の校了も濟み荒木陸相の校閲も經たので愈よ來る十一二日頃上し、市場に出る運びとなつた、同書は四六判三百頁に余る大部のもので滿蒙の地理風土を語る寫眞十數葉が挿入されてゐる外荒木陸相、多門第二師團長その他軍部知名の士が題字序文を寄せてゐる

解散派說得に躍起
總會波瀾防止の
濱三郡木炭組合

濱三郡木炭同業組合は既報の如く大勢は既に存續に傾いてゐるが一部幹部中には飽く迄解散を主張してゐる者もあるので組合では廿日頃開かれる總會に先立ち十日頃評議員協議會及び總代會を開き當日は特に縣山林課係官の臨席を乞ひ解散派の說得に努め總會に於ては滿場一致存續案を通過せしむべく躍起となつてゐる

新任横山署長
八日午後着任する

新任平署長横山宗延氏は八日午後零時五十五分平着磐越線列車で着任する

高坂校優勝
昨日の八百米繼走

昨五日の磐中運動會の呼物たる郡下十二小學校兒童八百米リレー決勝は午後三時から行はれたがタイム二分五秒で內鄕高坂(鈴木友三、遠藤正清鈴木國雄、高橋政次)優勝した、二着は平第一、前年優勝の好間は三着に落ちた

平窪村長再選

平窪村長草野常彌氏は任期滿了したので五日村會を開き改選の結果再選重任した

産業方面

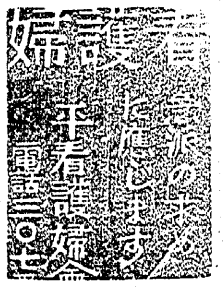
副業養鷄の常識（十三）

東農大出身　鈴木技師

一、九月上旬頃畑に大麥又は燕麥を播植して十一月頃になり漸次綠餌の欠乏してきた時、根元を一寸乃至二寸位殘して刈取りこれを給與するのである而して刈採られた殘りは未だ氣温が麥の發育に差支ないから更に伸びるのである、これを必要に應じて冬期の飼料とすべきである、燕麥は大麥より一般に軟かく水々しいもので鷄にも好まれるやうである、

二、大麥や燕麥を芽出して冬期に與ふるのも一方法である、これを作るには石油箱やビールの空箱を利用するのであるが要するにこれを土中に埋め丁度表面が地面と平らになる位にして置き十二時間程水に浸した麥類をこの中に厚さ四五寸位に廣げて入れ上部には莚二三枚かけ毎日一回づゝ水をかけると四、五日中に發芽するものである、而して發芽後も毎日二回位注水して根のからみ合ふのを防ぎ暖かい日光に時々晒し八分から一寸位まで伸ばし青味を帶びた時使用するのである青味を帶びない芽出しは綠餌とはならない、

三、秋季蔬菜類の莖葉を風にさらさないで良く日光で乾燥しこれを貯藏して置いて冬期青物の欠乏したとき温湯を注加して軟かくして綠餌とするのであるが手入が不良の爲ゆ醱酵させたり腐敗させたものは褐色や黑色を呈し綠餌として不適當になるものである



ガソリン　モビール油
日本石油株式會社
特約販賣
屋問油
店油内關
電話長16　平城磐
支店　郡山市驛前通　電話長八二三
支店　茨城縣關本驛前　電話長平潟七三
油槽出張所　平町四丁目　郵便局前

靜岡本場、小笠銘茶
大角園特約
半谷商店
平大町若松病院隣

改稱御知らせ
新藤屋（支店別館）改め
鐵道省、遞信省御指定
旅館　甲陽館
店主　武田コウ
平町驛前【電話一四八番】

和洋鋼鉄
問屋
良品廉價は
繁榮せや
金屋商店
磐城平町五丁目　電話九番

寫眞館移轉廣告
平公園研町通り表坂脇から
平町役場西隣元煙草專賣支所跡へ
右移轉致すことになりまして撮影場その他目下最新式の設備中であります。來五月十日頃までに完成次第同所に引移り從前の通り晝夜御需めに應じます。倍舊の御ひゐきを御願申上げます。
三光舘主　薄葉忠惠
移轉地　平田町五十番地

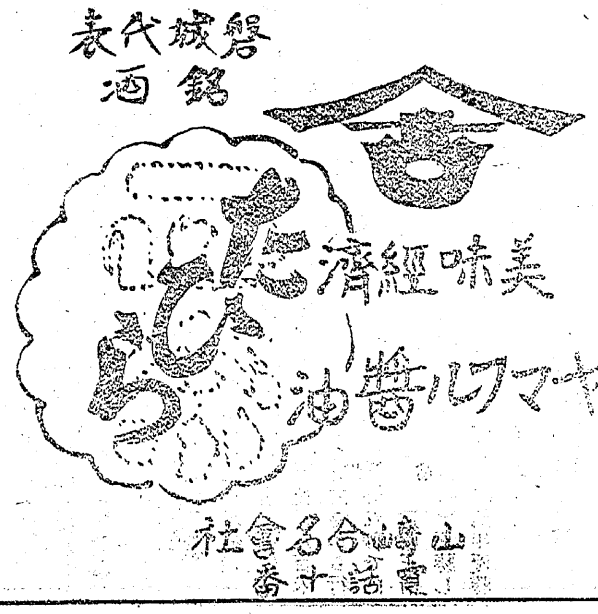
學生カバン
ボーシ陳列
◎責任ノ持テル丈夫ナ品◎
小學生用　ランドセル
防水マント
女學生用　フエルト手提鞄
とやるつ
電一四〇番

お手不足な御家庭に家政婦を派出いたします
本會は（お互に働きませうと云ふ健氣な婦人同志が相寄つて皆様の御便宜を勤めます爲に出來ました團体です）
！ご利用下さいませ！
姙産婦の御家庭、御病人の御家庭
お炊事や雜用、お留守居番
お年寄やお子供さんの付添、
親切に丁寧に
料金は（ご面談の上お望みに添ふ様ご經濟向にご相談致します）
平町字紺屋町二　電話（呼）六五二
上原家政婦會
會長（産婆）上原通子

徒弟さんを募集いたします
和洋家具製作徒弟　十名
西洋塗徒弟　一名
椅子張徒弟　一名
資格
（イ）本年尋常又は高等小學卒業の者
（ロ）身体強健にして意志強固なる者
右希望者は自筆の履歴書に學校の成績表を添へて至急御申込みあれ
（和洋家具製作販賣）（室内裝飾設計請負）
諸官衙學校會社御用達
株式會社　丸はん商店
製作所
平町三丁目　電話三五九番
平町新田前　電話一八二番

く塗れる！カセイン
カベ塗料
（一坪分）單價二十五錢
◎すぐ乾き……手間とれず塗れて……それが絶對變色せぬのが特長、
◎御婦人や子供にもたやすく塗ることが出來ます
◎どんな色合でもございますから御見本御覽の上是非一度御使用して見て下さい、
特約販賣店　大谷建材商店
平町紺屋町　電話三六六番

カフエータヒラの食堂
櫻花…今…「ランマン」
ごらん下さいませその裝飾を
そして花にうかれてゐる女給達を
相手にごゆつくりと
カフエータヒラ
平驛前　電話六二〇番

磐城代表銘酒
合
美味經濟
ヤマワル醬油
山崎合名會社
電話十番

安價で効果的な
天然加里肥
最も適應する作物！
蔬菜　馬齢薯　里芋　しやうが類
◎茄果類ではトマト　茄子の如き比較的病害に弱い作物に施用すれば抵抗力を興へ落果を防ぎます
天然加里肥は酸性でなンから
◎如何に施用しても土壤を惡變する虞は絶對にありません
一俵　三十錢
（大量取引は特に割引致します）
製造販賣　金成國雅
平町鎌田　電話六八八番